

人と野生動物は共生できるのか

～八郷地区の獣害から考える～

1 プログラム名：

学年	教科	単元	関連教科	時間数
4	総合的な学習の時間		理科・国語	20

2. 学習のねらい

1. 地域の野生生物について知り、その背景にある様々な問題について関心を持ち、自ら考えたり調べたりすることができる。
2. 地域で起きている獣害について多様な視点から考えることができる。
3. 「生物多様性」について知り、人間も生態系の一員であるという意識を育てる。
4. 自分たちが学び、考えたことについて地域に発信していくことができる。

3 ESDプログラムの目標 (○をつける)

持続可能な社会づくりの構成概念		ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度	
相互性	○	批判的に考える力 (批判)	○
多様性	○	未来像を予測して計画を立てる力 (未来)	○
有限性	○	多面的、総合的に考える力 (多面)	○
公平性		コミュニケーションを行う力 (伝達)	○
責任性	○	他者と協力する態度 (協力)	○
連携性		つながりを尊重する態度 (関連)	○
その他 ()		進んで参加する態度 (参加)	○
		その他 ()	

主なESDの視点

持続可能な社会づくりの構成概念について、○がつく理由を記入

構成概念	○がつく理由
相互性	生物はその周辺の環境と関わって生きていることに気付き、人間の活動がどのような影響を与えているか知る。
多様性	人間の活動が生態系へ影響を及ぼし、生物多様性を脅かす原因となることを知る
有限性	生き物と人間のつながりを学び、限りある資源を共有しているという自覚を促す
責任性	獣害を学習する中で感じたり、考えたりしたことを地域に発信することで、自分たちには持続可能な地域の将来に責任があることを実感する。

5 学習指導要領との関連 (関連させられる可能性のあるものを記入)

学年	教科/領域	学習内容
3年	理科	B 生命・地球 (2) 身近な自然の観察 身の回りの生物の様子を調べ、生物とその周辺の環境との関係についての考えをもつことができるようにする。 イ. 生物は、その周辺の環境とかかわって生きていること。
3・4年	国語	A 話すこと・聞くこと (2) ア 出来事の説明や調査の報告をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。 イ 学級全体で話し合っって考えをまとめたり、意見を述べ合ったりすること。 B 書くこと (2) ウ 収集した資料を効果的に使い、説明する文章などに書くこと。 C 読むこと (2) イ 記録や報告の文章、図鑑や事典などを呼んで利用すること

6 プログラム (単元・題材) の展開の流れ

	学習課題	学習(活動)内容	指導・支援の方法、ポイント等 〔教材・必要物〕
1 ・ 2 ・ 3 時 間 目		資料を調べたり、聞き取り調査によって地域の獣害の状況を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の新聞、ニュース、回覧板など調べる。 ・家族や近所の人から聞く。 ・地区市民センターで話を聞く。 <調べるポイント> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな動物が出るのか ・どこに出るのか ・どのような被害があるのか ・いつから動物が出るようになったのか ・退治するためにどんな工夫をしているのか ・昔の地域の様子と現在の違い <ul style="list-style-type: none"> ・グループやクラスで調べたことを共有する。
4 時 間 目		調べたことをもとに、野生動物が地域に出現するようになった原因につ	<ul style="list-style-type: none"> ・前回までの学習をもとにクラスで話し合う。 ・生物の現象の原因に、人間の営みが大きくかかわっていることに気付かせる。 住宅地や道路の開発、外来生物の侵入

		いて考える。	<p>気候変動などによる森の環境変化など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回の授業でゲストティーチャーに質問する事項を考える。
5 時 間 目		<p>獣害対策に取り組んでいる地域の人から現状と対策について話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自治会で獣害対策に取り組んでいる3名をゲストティーチャーとして招聘する。 ・地域の環境変化や獣害の現状と対策などについて写真などを使いながら話してもらう。 ・害を与えている動物も人間による自然破壊によって被害を受けていることをおさえる。 ・児童からゲストティーチャーに質問する時間を十分につくる。

6 時 間 目		<p>地域の生態系と生物多様性について専門家の話を聞く</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーとして専門家（研究会所属）が映像、写真を使って説明する。 <ul style="list-style-type: none"> ①地域でみられる外来生物 ②地域に生息する希少生物 ③昔の地域の自然 ④生物多様性とは ⑤環境に影響を与えるもの ・地域の生態系の変化の特徴がわかるようにする ・人間も生態系の一員であることに気付かせる ・生物多様性の視点から広い視野で物事を見ていくためのアドバイスをする ・児童から質問する時間を十分に作っておく
7 時 間 目		<p><話し合う> 「獣害問題、人間が悪い？動物が悪い？」</p> <p><話し合う> 「野生動物と人間が共によりよく生活できるためにはどうすればよいの</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・5, 6時間目にゲストティーチャーから聞いた話などから考えたこと感じたことをみんなに伝える。 ・関連した意見を繋げて整理し、板書する。 ・答えを絞るのではなく、児童それぞれの思いを明らかにする。 ・児童の考えが偏った時には、揺さぶりをかけ、違った視点から考えられるようにする (例) 山を削って自然を破壊した人間が悪い ↓ 団地や高速道路はない方がよかった？ ・答えが出るテーマではない。いろいろな意見や考えを出しながら、他の人の意見も聞いてそれを参考にしながら、自分の考えを深めさせる。 ・共生社会のイメージを描かせてみる。

		だろろう」	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカードに、自分の考えをまとめる。 ・この問題について、家でも話をし、意見交換をしてくるように話す。
8 9 10 11 12 13 14 時間目		<p>地区文化祭での発表に向けてこれまでの学習活動をまとめ、発信の準備をする。</p> <p>①調べ学習 ②まとめる作業 ③リハーサル</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでテーマを決めそれに沿ってまとめていく ・これまでの学習を通して自分たちが考えたこと、感じたことなど、子どもたちの思いを交えた発表になるようにする。 ・発表内容が聞く人にわかりやすいようにするにはどうすればいいか、発表スタイルを考えさせる。(プロジェクター、紙芝居、パワーポイント、模造紙など) ・時間配分、言葉の使い方、声の大きさなどを意識しながら発表に向けて練習を行う。 ・人に伝えようとする過程を通して、学習したことをより深く理解できるように支援する。
15 ・ 16 時間目		自分たちが学習したこと、考えたことを家族や地域の人々に発信する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地区文化祭でグループごとに発表する。 ・調べたことや考えたことがわかりやすく伝えられるように支援する。 ・一方的な発表会ではなく、地域の人々と意見交換ができる場を設定する ・意見交換により、さらに考え、学びを深めていけるよう支援する。
17 ・ 18 時間目		地区文化祭での地域の人々の意見をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々の意見や感想をまとめる中で、自分たちのこれまでの学習にフィードバックさせる。
19 時間目		四日市大学で専門家の話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・四日市大学へはバスで移動し、途中、里山を切り開いて工事を行っている現場や、獣害対策の柵や檻を見学する。 ・四日市大学で環境情報学部教授による「獣害に対する四日市大学の取り組み」についての講義を聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ○獣害調査や新しい獣害対策の技術など大学ならではの話を織り交ぜながら映像などを使って、わかりやすく説明していただく。 ○生物多様性という広い視点で物事をとらえる機会とする。 ○今後、獣害を減らすために私たちはどのように

			すればいいのか、児童が教授と意見交換しながら自ら考えるようにする。
20 時 間 目		これまでの学習の ふりかえり	・子どもたち自身が「地域の未来を担っていく主人公である」という自覚を芽生えさせる。

7. 児童用アンケート結果（当会が用意したもの：別紙のとおり）

--

8. 担当教員の感想から

--